水稲情報

（第１号）

令和４年３月３０日
あおば農業協同組合
各地区農業技術者協議会

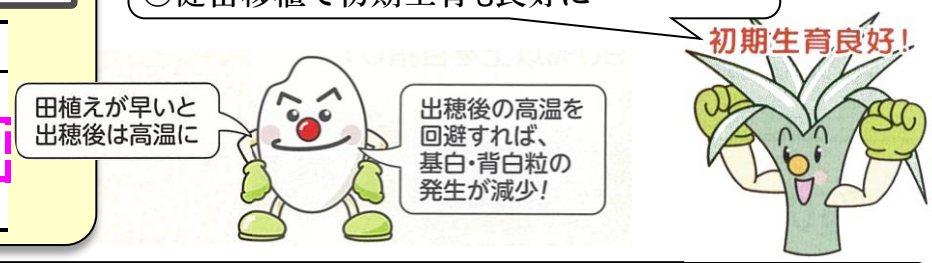
～～　あおば米１等比率９０％以上を継続しよう！　～～

・コシヒカリの田植えは5月15日を中心に、育苗日数は19日間以内を目安に計画的に播種しましょう。
・育苗ハウスの換気徹底により健苗を育成し、初期生育の確保につなげましょう。

コシヒカリの８月４日頃出穂を目指したスケジュール（平坦地）

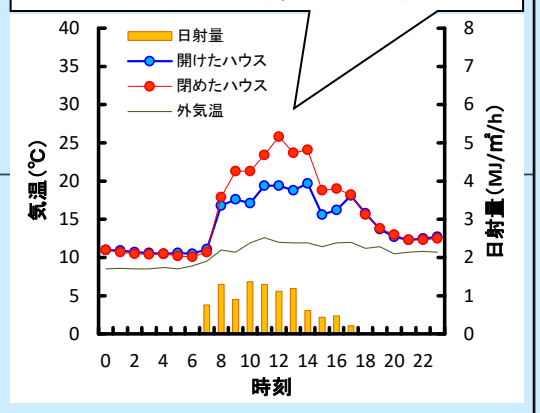
浸種	播種	田植日	出穂期
4／8	4／19	5／10	8／1頃
4／17	**4／26**	**5／15**	**8／4頃**
4／25	5／3	5／20	8／7頃

○播種から田植までを19日間以内としましょう
○健苗移植で初期生育も良好に



☆★☆育苗のスケジュールと作業内容☆★☆

月／日	作業	温度管理	作業管理のポイント
	器材消毒		苗箱の消毒はイチバン(1000 倍)で行い、苗箱はしっかりと乾かしてから使用する。
4／16	①比重選 ②種子消毒 薬剤処理済種子は③「浸種」から行う	水温は 10～20℃ を確保	**①比重選により、充実した種籾を準備する** ＊発芽障害を防ぐため、選別後硫安を水で洗い流す 【比重液の作り方】水10ℓに硫安を溶かす 品種／比重／水に溶かす硫安の量 うるち／1.13／2.5kg もち／1.08／1.5kg **②種子消毒の徹底** 【薬液の作り方】薬液は1回ごとに新しく作り換えて浸漬する 薬剤名／希釈倍率／浸漬時間／種籾量／水量／薬剤量 モミガードC水和剤／200倍／24時間／10kg／20ℓ／100g 同じ薬液を、繰り返し使わない ＊種子消毒後の廃液は適切に処理し、用水、河川に流出させない
4／17	③浸種	水温は 10～15℃ を維持 初日の水温を確保することが重要です	**③浸種はあわてず、播種の10日前頃から始める** ・水温×日数＝積算温度100℃を確保する ・水は浸種後2～3日目に交換、次からは1～2日おきに交換する ・発芽揃いを良くするため、浸種初日は水温12～13℃とする 浸種期間の目安 10℃→10日間 15℃→ 7日間
4／25	④催芽	育苗器内温度 28～30℃ 20～24時間	**④芽の長さをこまめにチェック** ・芽揃いを良くするため1日2～3回、袋を反転させる 目安：ハトムネ～2mmまで
4／26	**⑤播種**		**⑤播種量は催芽籾で箱当たり150g（乾籾120g）の薄播きとする** ・均一に播種するため、籾の脱水は十分に行う （籾が手に付かない程度にまで陰干しを行う） 乾籾 120g播き　乾籾 140g播き 【苗立枯病対策】（播種時のかん水を兼ねる）ナエファインフロアブル1000倍液を1箱当り500mℓ潅注。 ・覆土は苗箱の上面よりやや少なめに（均一なかん水ができるように）
	⑥出芽	育苗器内温度 30℃ 2～3日	**⑥育苗器の温度をこまめにチェック**（サーモスタットの使用前点検は、必ず行う）
4／29	⑦緑化	25℃を超えないよう、こまめに換気 ハウス内温度 昼25℃以下 夜10℃以上	**⑦芽の長さが1cmに揃ったらハウスへ搬出** ・搬出後は、覆土を落ち着かせ、緑化中に水不足にならない程度にかん水 ・緑化期間中でも、ハウス内の温度が25℃を超えないよう換気を行う ・第1葉が展開したら速やかに被覆資材を外す 曇りでも日射があれば、ハウス内温度は上昇するので、積極的に換気する
5／1	⑧硬化		**⑧田植えの10日前からは、昼夜ともに換気し、十分外気に慣らす** ・かん水は朝にたっぷりと行い、日中は床土の乾きに応じて行う ・かん水過多は根張りが悪くなるので、水持ちの良い床土はやり過ぎにも注意
5／15	**⑨田植え**		**⑨できる限り穏やかな気象条件で田植えを行う**



GAPチェックシート・栽培履歴の提出に備えて「栽培こよみ」に作業月日を記入しましょう

※今年からJA育苗センターの出芽苗及び完成苗ともに苗箱施薬入りとなります。移植時、苗箱施薬の二重施薬をされませんようご注意ください。

春の土づくり対策

☆★☆１等米比率の向上は確実な土づくりが基本☆★☆

１　土壌改良資材の施用

～ 土壌調査の結果、以前よりケイ酸や腐植含量（有機物等）が低下しています ～

○ケイ酸は高温条件下で登熟を向上させ、整粒歩合が高くなります（図１）
○成熟期の稲体ケイ酸濃度が高いと、割籾が少なくなり、カメムシ斑点米の被害も抑制します（図２）
・令和4年産に向けて、積極的に継続施用をお願いします！

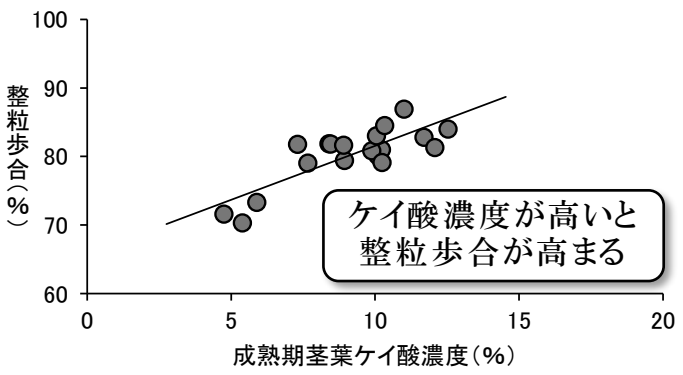


図1　成熟期の茎葉のケイ酸濃度と整粒歩合の関係

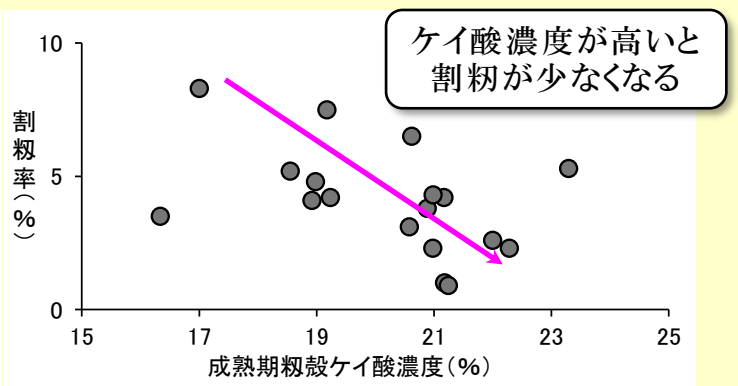


図2　成熟期の籾殻ケイ酸濃度と割籾の関係

◎ケイ酸＋アルカリ資材の継続施用
ケイ酸は品質向上に、
アルカリ成分を含む資材はpH矯正に
役立ちます

※JAあおばでは、ケイ酸質資材等の購入代金に対して1%の助成を行っています。

【ケイ酸質資材等の標準施用量】　（kg/10a）

資材名	施用量	資材名	施用量
グリーンウェイブDX	90～120	灰入りスーパーエスアイ加里	100
あおばフミンエース	100	シリカロマン	100
スーパーケイサン＋	90	有機加里入りシリカロマン	100

※各種お買い得なフレコンもありますので活用下さい。

２　有機物の施用

～ 有機物の施用であおば米の食味向上 ～

堆肥や発酵鶏糞などの有機物を積極的に施用し、地力の向上に努めましょう

※JAあおばから堆肥散布に対する助成もあります。（当年12月末までに申請が必要です）
詳細については、各地区営農経済センターまでお問い合わせください。

【堆肥施用量の目安】春施用：10a当たり

牛糞堆肥	1t
豚糞堆肥	0．5～1t
発酵鶏糞	75kg（復元田：150kg）

注：コシヒカリは、基肥を窒素成分で1kg減肥

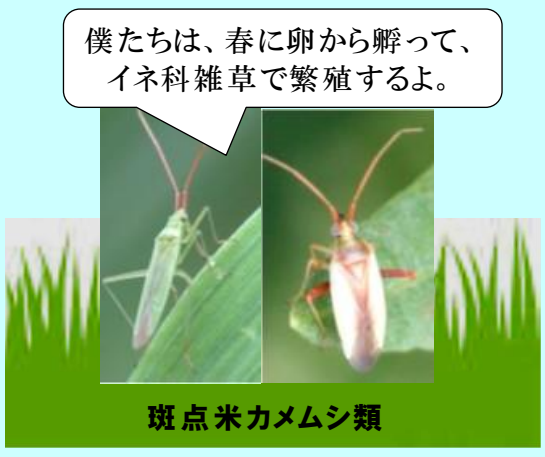
３　深耕による作土層の拡大

春耕時はトラクターの速度を落とし、作土深15cm以上を確保しましょう

カメムシ対策　第１回

～ 春から始まる雑草対策 ～

・カメムシが好むイネ科雑草を春のうちに少なくすることで、カメムシの密度を抑えることができます
・除草剤を使用する場合は、4月中下旬頃を目途に畦畔等にバスタ液剤、ザクサ液剤等の茎葉処理除草剤を散布して雑草を減らすようにしましょう（遅くとも田植えの始まる前までに行いましょう）
・除草剤散布をしない場合は、幼虫の餌となるイネ科雑草が穂をつけないよう、こまめに草刈りを行いましょう



【除草の方法と主な効果】

除草方法	越冬世代に対する密度低減効果		除草により期待される効果等
	幼虫	成虫	
除草剤散布（バスタ、ザクサ等）	○	○	・カメムシ類の密度低減効果が高い ・幼虫の餌となる雑草がなく、生存できなくなる ・寄主植物がないため、成虫の飛来や産卵がみられなくなる
草刈り（穂が出ないように）	△	○	・除草剤散布をしない場合の対応 ・幼虫はイネ科雑草の葉だけでも発育できるが、穂がないため、幼虫の発育遅延や羽化率が低下する ・穂がないため、成虫の飛来や産卵が抑えられる

（注）○：効果が高い、　△：一定の効果がある

【水稲育苗ハウスで野菜等の栽培を行われる方へ】
水稲育苗ハウスで野菜等の栽培を行う場合、苗箱施薬剤は育苗ハウスから搬出した後に散布しましょう

「しめよう！シートベルト」春の農作業安全運動展開中！

水稲情報　第2号の発行日は、4月27日頃を予定しています